

EWI と PC/Mac の徹底使いこなしガイド

この章ではカラオケなどの伴奏に合わせて演奏を楽しむ方法を解説します。

お手元の音楽ファイルや Youtube、音楽ストリーミングサービスなどを PC で再生しながら EWI で演奏する際は、これまでで紹介してきた MPC Beats とオーディオインターフェースを使った設定がおすすめです。それがない場合でもレイテンシーなどの問題はありませんが、伴奏に合わせて EWI 演奏をすることができます。これらの設定方法とそれぞれのメリット・デメリットについて詳しく説明します。

PC の伴奏にあわせて演奏する

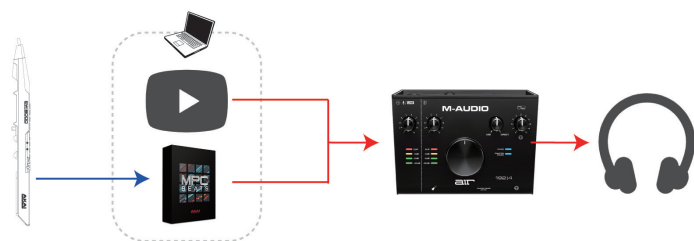
10-1 MPC Beats とオーディオ・インターフェースを使用した場合

10-2 MPC Beats を使用し、オーディオ・インターフェースは使用しない場合

10-3 オーディオ・インターフェースを使用し、EWI の内蔵音源で演奏する場合

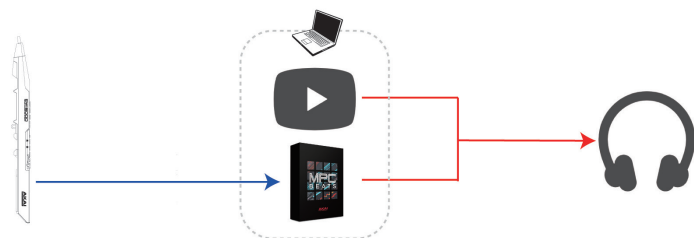
10-1 MPC Beats とオーディオ・インターフェースを使用した場合

最も快適に伴奏に合わせて演奏ができる方法です。ここでは、MPC Beats はソフトウェア音源として使用し、伴奏の再生には PC のメディアプレイヤーなどのアプリケーションや Youtube などのストリーミングサービスを使います。自身の演奏と伴奏が同じスピーカーやヘッドホンから再生されるように設定します。PC の音声出力設定を MPC Beats で使用しているオーディオインターフェースに変更すれば完了です。



10-2 MPC Beats を使用し、オーディオ・インターフェースは使用しない場合

オーディオインターフェースを使用しない場合には、PC と MPC Beats の音声出力設定は標準で搭載されている音声出力が選択されます。この時レイテンシー（音声遅延）の問題が発生する可能性があります。レイテンシーを改善するには MPC Beats の Preference の中にある Audio Buffer Size を小さい値のものに変更してください。Windows の場合はあらかじめコントロールパネルの出力の設定で Windows Audio または、DirectSound が選択できますが、Buffer Size を小さくするためには DirectSound を選ぶ必要があります。Buffer Size は小さくしすぎると PC への負荷が大きくなりノイズが発生することがありますのでお使いの環境に合わせて調整を行ってください。

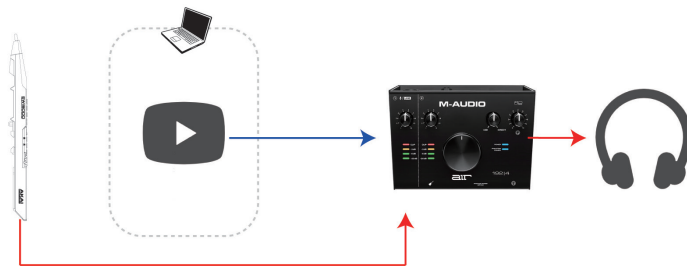


EWI を
PC で
楽しむ



10-3 オーディオ・インターフェースを使用し、EWI の内蔵音源で演奏する場合

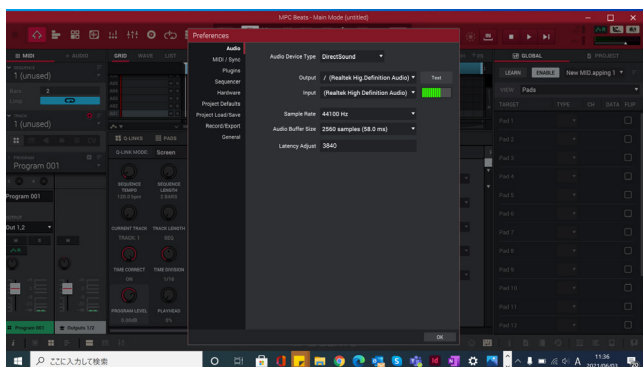
EWI の内蔵音源を使用して伴奏に合わせた演奏をしたい場合、ダイレクトモニタリング機能のついたオーディオインターフェースを使用することで簡単に設定ができます。まず MPC Beats やメディアプレイヤーなど PC からの音声の出力先をオーディオインターフェースに設定します。次に EWI 本体の出力をインターフェースのオーディオ入力端子に接続。ダイレクトモニタリング機能搭載のオーディオインターフェースの場合、入力した音声を PC を介さず直接オーディオインターフェースから出力することができるため、演奏した音声が遅延することなく PC の伴奏に合わせて演奏できます。



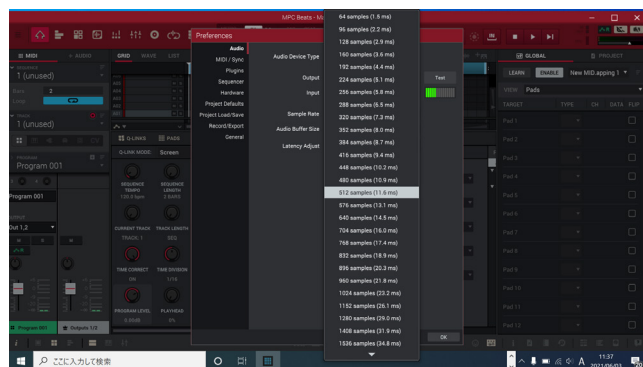
▲ Windows のサウンド設定で MPC Beats で使用しているオーディオ・インターフェース (AIR192|6) を選択
スタート右クリック>設定>システム>サウンド



▲ Mac のサウンド設定で MPC Beats で使用しているオーディオ・インターフェース (AIR192|6) を選択
システム環境設定>サウンド



▲ MPC Beats の Preference で Audio Device Type を Direct Sound を選択する。Mac の場合には Core Audio を選択。
Preference>Audio>Audio Device Type



▲ノイズや遅延を防ぐためにバッファサイズを調整する。
Preference>Audio>Audio Buffer Size

今回は MPC Beats に付属している Tube Synth を使って往年の EWI 音色を再現する方法を解説します。